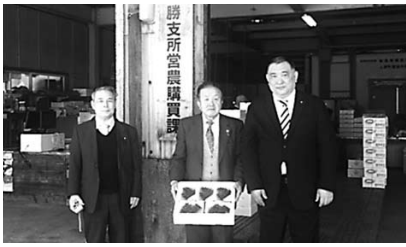


議員行政視察報告

「持続可能なまちづくり」を目指す

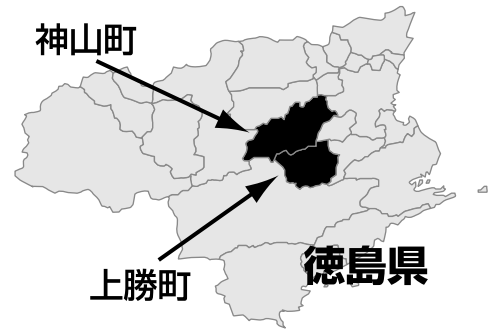
平成28年3月16日(水)～18日(金)

参加議員 大館秀孝・飯田 一・齋藤 永



JA東とくしま上勝支所にて

四国にある徳島県上勝町・徳島県神山町・香川県小豆島町を訪れてみました。上勝町は、人口1万



7千前後の町で、86%が山林の山深い地域に55%の集落が点在しています。「持続可能なまちづくり」を目指しています。この実現に向け4つのE、Economy（経済）、Environment（環境）、Education（教育）、Entertainment（娯楽）がキーワードになります。経済については、日本料理に季節感を演出するために添えられる「つまもの」を生産する「葉っぱビジネス」を筆頭に、地域資源を活用したスタートアップビジネスの起業が相次いでいます。実際現地

に行き「葉っぱビジネス」で有名な元気なおばちゃんたちが、集荷場で機械によりスキヤニングしている場面やTシャツを使いこなしている場面は、とてもお年寄りに見えな

いほどでした。隣にある神山町は、農林業中心の町で、特産品は、すだちで日本一の生産量で、高齢化による過疎化に直面している町です。ところが近年サテライトオフィス企業が進出、人材が移住して、空き家を借りオフィスを作るなどして、先進的な過疎地域として注目を集めています。

香川県のオリーブの発祥の地で有名な小豆島町にある小豆島オリーブ公園を訪ねてきました。今、私たちの地域でもオリーブを栽培する農家が何軒か現れ始めました。特産品と観光の結びつきについて視察してきました。

(記・齋藤永)

議員行政視察報告

松田氏のルーツと古い街のにぎわい探訪

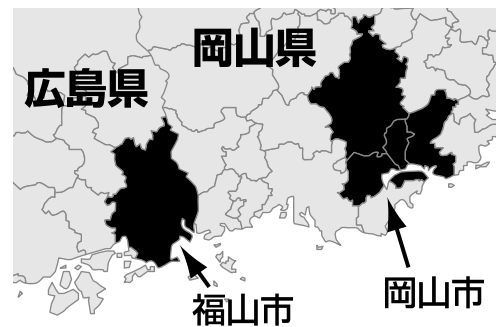
平成28年3月24日(木)～25日(金)

参加議員 石内 浩・小澤啓司



御津郷土歴史資料館にて

岡山県岡山市の御津郷土歴史資料館で松田氏のルーツを探ってみました。相模松田氏は、承久の



乱(1221年)の功で、備前に領地を賜り、応仁の乱まで13代、235年間続き、西国各地に松田氏が散在している。

「玉松会」は、玉松城落城400年を記念して、祖先の供養を全国に呼びかけ、昭和41年に55名で発足。毎年4月第一日曜日(例大祭、西国各地ゆかりの地を訪れるなどの活動)を続けている。平成7年には、発祥の地「松田町」を訪れた時、郷土の地形とそっくりなことに感銘している。事務局長の山村氏は、交流に意欲を持っており、備

前松田氏と相模松田氏が一堂に会しての歴史再認識の必要性を痛感した。

広島県福山市の浦地区は、江戸時代のままの街並みと継承されてきた文化や習慣の中で、近所が助け合う「互助」の精神が自然と根付いています。地区人口約4千人、高齢化率45%の過疎地区ですが、高齢独居の方や認知症の方が一人ぼっちにならないよう、近所の仲間を交えて気軽に集まれる居場所づくりが盛んです。

「地域密着型多機能ホーム」や「輛の浦ふれあいサロン」を開設したり、地元商店を活用した「買い物支援網」を立ち上げるなど、地域共生の一環として実践している。輛の浦ボランティア会の稲葉会長が「ここで生まれている以上、必要なことをやっているだけだ」と朴訥に語っていたことが印象に残った。

(記・小澤啓司)